

令和6年度

業務年報

令和7年9月

宮崎県畜産試験場

＝ 目 次 ＝

I	沿革、組織機構、職員数、位置及び規模	1
II	令和6年度試験研究の重点目標	4
III	試験研究の実施概要	6
1	肉用牛部	6
2	酪農飼料部	6
(1)	乳用牛	6
(2)	飼料草地	6
3	家畜バイオテク部	7
4	川南支場	7
(1)	養豚科	7
(2)	養鶏科	7
(3)	環境衛生科	7
5	令和6年度試験研究課題一覧	9
IV	試験研究課題及び成果の概要	12
1	肉用牛部	12
2	酪農飼料部	13
3	家畜バイオテク部	14
4	養豚科	15
5	養鶏科	15
6	環境衛生科	16
7	「普及技術等」として評価された成果	17
8	特許等登録状況	19
V	その他の事業	20
1	粗飼料分析指導事業	20
2	受精卵供給事業	22
3	家畜排せつ物の適正管理と利用促進のための現地指導	23
4	みやざき地頭鶏の素ひな供給事業	24
VI	試験研究の発表及び広報・研修活動等	25
1	試験研究の発表	25
2	広報活動	26
3	講演・講義	26
4	研修活動	28
5	職員・研究支援員研修	28
6	主要刊行物	31
VII	総務	32
1	令和6年度予算	32
2	令和6年度主要施設整備	32
3	令和6年度主要備品整備	32
4	県有財産・土地調べ	32
5	県有財産・建物調べ	32
6	令和6年度職員の配置	33
VIII	資料	34

I 沿革、組織機構、職員数、位置及び規模

1 沿革

大正 9 年 5 月	・軍馬補充用地を借り受けて「宮崎県種畜場」（西諸県郡高原村）を創設 ・種畜場で種雄畜候補の牛・馬を導入し、育成事業を開始	昭和 5 6 年 4 月	・「宮崎県畜産試験場」を設置（総合農業試験場から畜産部門分離）	
大正 1 0 年 2 月	・種畜場でめん羊を導入し、繁殖事業を開始	昭和 5 8 年 4 月	・本場を高原町へ移転し、「肉用牛部」、「酪農部」、「畜産部」を新設	
大正 1 1 年 4 月	・宮崎県種畜場に「養鶏部」を新設	8 月	・肉用牛部門を肉畜支場から畜産試験場（高原町）へ移転、畜産部環境衛生科を肉畜支場へ移転	
昭和 2 5 年 4 月	・宮崎県農業試験場に「畜産部」を新設	昭和 5 9 年 4 月	・「副場長（総括・技術）」制を新設、畜産部を廃止し、「飼料草地部」を新設、肉畜支場を「川南支場」に改組	
	5 月	・種畜場が「宮崎県種きん場」（宮崎市島之内）として移転	昭和 6 1 年 4 月	・養鶏支場を廃し、「養鶏科」として川南支場へ移転
	4 月	・「宮崎県家畜衛生試験所」（宮崎市御船町）設置	昭和 6 3 年 4 月	・管理部を「管理課」とし、肉用牛部と酪農部を統合し「大家畜部」を設置 ・川南支場の肉豚科と育種科を統合し「養豚科」を設置
昭和 3 1 年 1 1 月	・「川南分場」（児湯郡川南町）とし中小家畜部門が種畜場から移転独立	平成 2 年 4 月	・大家畜部繁殖科を廃止し、「生命工学科」を設置、「優良家畜受精卵総合センター」を畜試内に設置	
昭和 3 6 年	・種畜場で県内に分散配置されていた乳用種雄牛を集中管理	平成 6 年 4 月	・大家畜部と飼料草地部を「育種部」と「飼養部」に改組	
昭和 3 7 年	・昭和 3 7～4 0 年度の施設整備により、酪農専門の種畜場に移行	平成 1 9 年 4 月	・畜産試験場と優良家畜受精卵総合センターを統合再編、本場の各部の科を廃止し、「副部長」を設置（2 部 5 科を 3 部 3 副部長体制に変更）	
昭和 4 0 年 8 月	・宮崎県総合農業試験場設置に伴い農業試験場家畜飼料研究室及び家畜衛生試験所を「畜産部」、種畜場本場を「酪農支場」、種畜場川南分場を「肉畜支場」、種きん場を「養鶏支場」として発足	平成 2 2 年 4 月	・川南支場で口蹄疫が確認され、全ての豚殺処分	
昭和 4 2 年 8 月	・酪農支場内に「酪農研修館」（営農指導課所管）を設置	平成 3 0 年 1 1 月	・川南支場から種鶏舎の一部を本場に移転整備	
昭和 5 1 年 4 月	・肉畜支場に「高千穂試験地」を設置	令和 2 年 5 月	・畜産試験場 1 0 0 周年	
昭和 5 5 年 4 月	・同高千穂試験地を廃止			

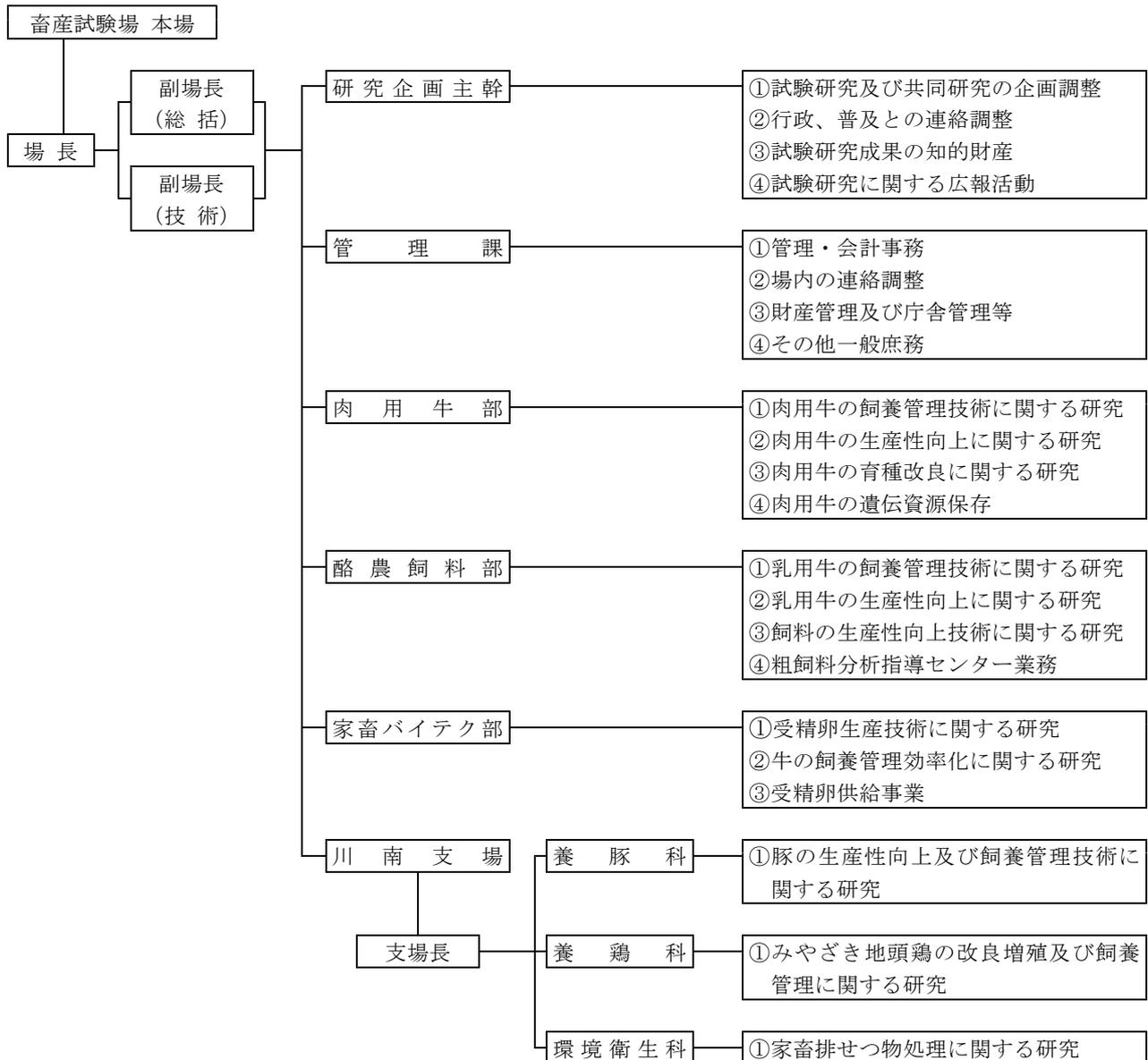


[畜産試験場 本場]



[畜産試験場 川南支場]

2 組織機構及び主な業務内容



3 職員数

(令和6年4月1日現在)

区分	研究職員		行政職員		計		会計年度任用職員	
		うち再任用		うち再任用		うち再任用	支援員	補助員
場長			1		1		29	21
副場長			2		2			
研究企画主幹	1				1			
管理課			4		4			
肉用牛部	5				5			
酪農飼料部	4	1			4	1		
家畜バイオテック部	3				3			
本場計	13	1	7	0	20	1	29	21
支場長	1				1		10	11
養豚科	3				3			
養鶏科	3				3			
環境衛生科	2	1			2	1		
川南支場計	9	1	2		11	1	10	11
合計	22	2	9	0	31	2	39	32

4 位置及び規模

(1)位置

名称	所在・交通等
畜産試験場 本場	<p>■所在地 〒889-4411 宮崎県西諸県郡高原町大字広原5066 TEL(0984)42-1122 FAX(0984)42-1707 E-mail:chikusan-shikenjo@pref.miyazaki.lg.jp HP:https://www.pref.miyazaki.lg.jp/chikusan-shikenjo/index.html</p> <p>■交通 高原駅(JR吉都線)下車、徒歩15分 高速高原インター降車、車7分</p>
畜産試験場 川南支場	<p>■所在地 〒889-1301 宮崎県児湯郡川南町大字川南21986 TEL(0983)27-0168 FAX(0983)27-0153 E-mail:chikushi-kawaminami@pref.miyazaki.lg.jp HP:https://www.pref.miyazaki.lg.jp/chikusan-shikenjo/index.html</p> <p>■交通 川南駅(JR日豊本線)下車、車5分 高速都農インター降車、車10分</p>

(2)用地・施設面積

(令和6年4月1日現在)

区分	用地面積(ha)				
	飼料畑	牧草地	山林	宅地、その他	
本場	128.5	30.6	34.6	44.9	18.4
川南支場	23.2	0.0	0.0	0.0	23.2

(3)家畜飼養頭羽数

(令和6年4月1日現在)

区分	黒毛和種		ホルスタイン種	F ₁
	うち繁殖母牛			
牛	85	57	63	0

区分	繁殖豚計	繁殖雌豚			繁殖雄豚		子豚	肥育豚計	肥育豚		
		LW	Y	D	D	Y			LWD	YD	YY
豚	35	23	7	1	4	0	62	38	0	0	

区分	計	地頭鶏				
		地頭鶏	劣勢白色 プリマスロック	地劣 (F1)	九州ロード	みやざき 地頭鶏
鶏(本場)	1,831	59	26	—	1,746	—
鶏(川南支場)	1,623	638	359	48	578	
計	3,454	697	385	48	2,324	0

II 令和6年度 試験研究の重点目標

＜試験研究の基本方針＞

「第八次宮崎県農業・農村振興長期計画」、「みやざき畜産共創プラン」および「宮崎県農畜水産試験研究推進構想」に基づき、儲かる宮崎の畜産を先導する技術開発を推進するため、「スマート時代の農畜産業を支える技術開発」、「地域農畜産業の魅力を活かし、新たな価値を共創する技術開発」、「持続的で安全・安心な農畜産業を実現する技術開発」を大きな柱とし、生産現場で発生する技術問題の解明と多様な試験研究ニーズに対応した新技術の開発などの取組を推進する。

特に、畜産物の宮崎ブランド化の更なる推進に向けて、ゲノミック評価を活用した新たな改良手法の開発や、産肉性・経済性に優れた宮崎牛の生産技術の確立、宮崎産豚肉の新たな銘柄の確立、みやざき地頭鶏の高付加価値化に取り組む。

また、競争的資金などの外部資金の活用を図りながら、普及センターや畜産関係機関・団体、更に国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構や宮崎大学をはじめとする産学官による「オープンイノベーション」の取り組みにより、革新的技術の開発を目指す。

(1) 大家畜部門

肉用牛については、繁殖牛、子牛及び肥育牛の各ステージにおける生産性の向上や低コスト生産を実現するための飼養管理技術の開発並びに国産飼料を効率的に活用した収益性の高い宮崎牛の生産技術の確立を図る。また、DNA情報を活用した育種技術の実用化、受精卵生産に関する効率的培養技術の開発や、抗酸化物質投与が供胚牛の採胚成績に及ぼす影響の調査を行うとともに、受胎率向上に関連する要因を包括的に見える化する。さらに、胞状卵胞数を指標とした繁殖性の早期判断基準の新設や、未利用資源を活用した機能性成分高含有飼料の実用化に向けた製造方法の確立を目指す。

乳用牛については、搾乳ロボット体系におけるトウモロコシ子実や笹サイレージを利用した発酵TMR調製による低コスト化を目指す。また、牛の第一胃内発酵による温室効果ガス排出量の低減を目指す。

(2) 飼料草地部門

今までの粗飼料生産の栽培体系とは違った自給飼料栽培を検討し、高栄養かつ飼料自給率向上をめざすことにより、畜産経営の安定化を推進する。

現場ニーズの高い粗飼料の成分分析や品質評価については、地域農業改良普及センターや総合農業試験場等と連携し、情報提供をするとともに、主要な飼料作物については、本県の気候に適合した優良品種を選定し、地域農業改良普及センター等の関係機関や生産現場に役立つ情報を提供する。

また、外来害虫についても、地域農業改良普及センターや総合農業試験場等の関係機関と連携し、生産現場に役立つ情報提供を行う。

さらに、近年の飼料高騰により自給飼料への注目が高まっていることから、国産濃厚飼料である子実用トウモロコシの栽培体系の実証を行い、栽培に要するコストや収益性について検証する。

また、収穫した子実用トウモロコシを家畜に給与するにあたり、保存方法や調製技術についての試験やデータ蓄積を行い、実用化に向けて検証を進める。

(3) 養豚部門

持続可能な肉豚生産を目指し、地元大学等と連携を図りAIやIoT等を駆使したスマート養豚技術の開発を行うとともに、近年、普及が進む多産系母豚について、その産子の増体向上を目指し、単体アミノ酸等の飼料添加を行う。

更に、食品廃棄物や未利用資源等の飼料としての活用方法を研究する。

(4) 養鶏部門

雄系原種「地頭鶏」の維持・増殖、改良並びに雌系原種鶏「九州ロード」の改良に取り組む。

更に、ひなセンターへの種鶏ひな供給と種鶏飼養管理技術の向上を図り、生産農家へのみやざき地頭鶏のひなの安定供給体制の確立に努める。

また、みやざき地頭鶏の生産性向上対策としては、暑熱期の飼料添加剤の選定を行い、夏期の出荷体重の改善を目指す。さらに、幼雛期の点灯方法の違いによる発育性の比較試験を実施し、幼雛期の点灯技術を確立することで、みやざき地頭鶏

の生産性向上を図る。

(5) 環境衛生部門

本県の畜産業の健全な発展を図るためには、持続的かつ資源循環型の畜産を推進する必要がある。

このため、家畜排せつ物の適正処理や利用の促進、窒素排せつ量及び温室効果ガス(GHG)の削減などの環境負荷軽減のための技術開発に取り組むこととし、硝酸性窒素等の規制が厳しくなっている養豚排水処理においては、その削減に向けた処理の高度化を図るための技術を生産者、民間企業、大学および農研機構等と共同・連携して開発する。また、豚の飼養管理においては、低タンパク質アミノ酸バランス飼料給与による窒素排せつ量の低減を図るとともに、地域資源の活用による飼料費の削減と飼料自給率の向上を目指した技術を確立する。

Ⅲ 試験研究の実施概要

1 肉用牛部

本県肉用牛の更なる育種改良に資するため、DNA情報を活用した効率的で精度の高い種雄牛造成法の確立を図るとともに、子牛や肥育牛の生産性向上、低コスト生産、環境負荷低減のための飼養管理技術の開発に取り組んだ。

「肉用牛における県独自のゲノミック評価技術の構築と育種改良への活用に関する研究」では、SNP情報を用いたゲノミック評価技術の活用に向けたリファレンス集団の構築のため、枝肉共進会等の出品牛や一般肥育牛からDNAサンプルを採取し、SNP型判定を実施するとともに、評価対象形質の情報を収集・蓄積した。

本県の肉用牛は「宮崎牛」として全国的にブランド化が図られつつあるが、生産者の高齢化や担い手不足による農家戸数の減少、飼料価格の高止まり等の状況が続いている一方で、規模拡大が進展し、労働力不足も課題となっている。

このような中、「生産性向上を目指した繁殖牛・子牛の効率的飼養管理技術の検討」では、繁殖牛用の未利用資源を活用した発酵TMRや子牛用発酵TMRの開発について検討するとともに、ICT機器を用いた子牛発育推定システムの開発についても検討した。

また、「競争力を強化した肥育牛生産体系の開発に関する研究」では、出荷月齢の早期化や放牧を取り入れた肥育体系を検討した。加えて、「牛の消化管内発酵由来メタン削減資材に関する調査」では、脂肪酸カルシウムの給与効果についても検討した。

更に、「『宮崎牛』のおいしさ高位平準化試験」では、「宮崎牛」のブランド力の更なる強化を目指して、おいしさに関する成分を解明するため、理化学的分析等を実施した。

2 酪農飼料部

(1) 乳用牛

本県の酪農は、世界的配合飼料原料価格の高騰等の影響を受けて生産費に占める飼料費が増加しており、自給飼料増産や未利用資源の活用等による飼料費の低減が求められている。

また、異常気象により乳用牛の暑熱ストレスが乳生産性や繁殖性に与える影響が大きくなり、暑熱ストレス低減への対応が求められている。さらに、温暖化の要因の一つである、反芻家畜由来のメタンガスの削減

技術が求められている。

そこで「温暖化に対応した乳牛の飼養管理最適化試験」では、国産トウモロコシ乾燥子実の代替にトウモロコシ子実サイレージを用いた発酵TMRの給与試験を実施した。

また、「搾乳ロボットを活用した乳用牛の暑熱ストレスと環境負荷低減技術の実証」では、反芻家畜由来のメタンガス削減を目的とした機能性飼料の給与試験を実施した。

(2) 飼料草地

飼料作付け面積は、水田フル活用による飼料用稲や飼料用米の作付推進を背景として、全国的には増加傾向にあるものの、本県はほぼ変わらない状況であるが、労働力不足、耕作放棄地増加、温暖化や気象リスクへの適切な対応など、解決すべき課題が山積している。

そこで、「新たな高栄養飼料作物の生産技術の開発」では、これまでの粗飼料生産の栽培体系とは違った高栄養な自給飼料栽培の検討を行った。

飼料自給率向上による畜産経営の安定化をめざして、これまでの自給飼料と比較して高栄養な飼料作物の栽培、調製技術の開発に取り組んだ。

現場ニーズの高い粗飼料の成分分析や品質評価については、地域農業改良普及センターや総合農業試験場等と連携し情報を提供するとともに、主要な飼料作物については、本県の気象条件に適合した優良品種を選定し、地域農業改良普及センター等の関係機関を通じて畜産農家等の生産現場に役立つ情報提供を行った。

また、その他外来害虫についても、地域農業改良普及センター、総合農業試験場等と連携し、生産現場に役立つ情報提供を行った。

近年の穀物価格高騰により、濃厚飼料の国産化が注目されており、特に子実用トウモロコシについては九州でも栽培が拡大しつつあるが、栽培事例や飼料としての活用方法に関するデータが少なく、普及までは至っていない状況である。そこで当地域に適した子実用トウモロコシ栽培体系の実証や、栽培に関する収益性について検証し、今後、地域の栽培体系に組み込めるよう知見の蓄積を行った。

さらに、「飼料作物の優良品種選定試験」では、市販されている品種のうち、県の気象条件等に適合した優良品種の選定を総合農業試験場や地域農業改良普及センター等と連携して実施し、情報提供を行った。

「粗飼料分析指導センターにおける飼料分析」では、

地域農業改良普及センターを通じて畜産農家から依頼のあった粗飼料の分析を近赤外線分光分析計などの分析機器を用いて実施し、地域農業改良普及センターや畜産農家への情報を提供を行った。

3 家畜バイオテク部

「効率的胚生産技術共同試験」では、経膈採卵からの体外受精（OPU-IVP）による体外胚生産において、通常6時間必要とされる媒精時間を3時間に短縮することによる影響について検討した。

「受精卵移植における受胎率向上試験」では、現場で活用できる簡易的受卵牛選定手法を検討するため、発情前日、発情日、受精卵移植日の子宮環境及び血液性状を調査し、頸管粘液pHやVERと合わせて受胎牛と不受胎牛の比較を行い、受胎に影響する要因を探索した。

「食品廃棄物を用いた機能性成分高含有飼料の実用化に向けた製造の検討」では、機能性成分であるGABA・オルニチンを含む焼酎粕発酵飼料を用いて発酵TMRを調整し、品質評価を実施した。また、同TMRを繁殖雌牛へ給与した場合の影響について検討した。

「黒毛和種における卵巣予備能と繁殖性の関連性調査」では、黒毛和種において胞状卵胞数による繁殖性の予測が可能であるか検討するために、場内及び協力農家において、胞状卵胞数と繁殖性の関連性について調査した。

「黒毛和種供胚牛の採胚成績向上」では、採胚成績向上を目指し抗酸化物質であるレスベラトロールの効果的な投与経路について検討するため、繁殖母牛に経口投与し血中濃度の測定が可能かを調査した。

4 川南支場

(1) 養豚科

本県の養豚は、飼養頭数が約72.2万頭（令和6年2月1日現在）で全国3位、養豚産出額が600億円（令和5年）で全国3位である。

近年の養豚情勢は、農家戸数が減少する一方で、飼養規模が拡大する傾向にあり、多産系母豚の導入による産子数の増加、飼養管理にAIやICTを取り入れた生産性の効率化・省力化が図られつつある。また、循環型農業の推進により、資源を循環させ環境の負荷軽減を目指す養豚システムの構築が求められている。

そこで、養豚科では、飼養管理における労働力の削減、省力化を目指し、「省力的で生産性の高い養豚

経営に向けた技術開発・実証試験」として、給水器に温度センサーを設置し、自動で体温を測定する装置（スマート給水器）を宮崎大学と共同で開発し、その精度向上と実装に向けた検討を行った。加えて、低体重の子豚の発育改善を目指し、単体アミノ酸を飼料に添加し、子豚の増体を調査した。他にも、キウイの規格外品の有効活用を目指し、肥育豚へ給与した際の発育や肉質への影響を調査するため、実証試験を行った。

また、未利用資源の有効活用を目指し、「食品廃棄物を用いた機能性焼酎粕の製造および家畜への給与に関する研究」として、県食品開発センターと共同で機能性成分が発育等に及ぼす影響を検証した。

(2) 養鶏科

令和6年2月1日現在の畜産統計における本県の飼養羽数は、ブロイラーが全国2位、採卵鶏は、全国21位である。

宮崎ブランドの一つである「みやざき地頭鶏」の雛供給羽数（令和6年度）は、341,793羽であり、前年対比91%と減少した。

これについては、新型コロナウイルス感染の影響が落ち着いたことにより、経済が平常活動へと動き始めたことによる需要の回復傾向が要因となっているものの、長引くウクライナ戦争や円安等の影響により飼料価格や資材高騰、生産者の高齢化による廃業等もあり、経営は厳しい状況が続いている。

このような情勢の中、みやざき地頭鶏需要拡大のためには、原種鶏の更なる能力向上が求められている。

そこで、雄系原種鶏である「地頭鶏」では、現在種鶏として稼働しているS60群の後継となる複数の後継群の改良を進めるとともに維持、増殖に取り組んだ。雌系原種鶏である「九州ロード」については、熊本県・大分県と3県協定試験による種卵交換を行いながら能力向上を目指した。

また、みやざき地頭鶏の生産性向上対策として、暑熱期の飼料添加剤の選定を行い、夏期の出荷体重の改善試験や幼雛期の点灯方法の違いによる発育性の比較試験を実施した。

(3) 環境衛生科

高齢化による担い手不足が深刻化する中、畜産の成長産業化に向けては、AI、IoT等の先端技術を活用した「スマート農業」の実現により、生産性向上や労働不足の解消を図ることが重要な課題となっている。ま

た、「みどりの食料システム戦略」（持続的な食料システムの構築）の観点から、家畜排せつ物処理・管理や家畜の飼料給与に由来する温室効果ガス（GHG）の削減技術の開発やその普及が求められている。

そこで、「持続可能なスマート畜産環境対策技術の開発・実証」として、「スマート養豚排水処理システムの実証」では、農研機構畜産研究部門や県内外の民間企業等と連携し、改良型の「BOD監視システム」や、「汚泥管理システム」及び「IoT遠隔監視」を組み合わせたスマート農業技術の現地実証を行い、「BOD監視システムⅡ」と「スマート汚泥管理システム」の2つのスマート農業技術を普及に移した。なお、令和7年度からは普及に移した2つの技術の実装を進めるためにスマートSOP（スマート農業技術導入・運用手順書）作成研究に取り組む。

また、「地域資源を活用した低タンパク質アミノ酸バランス改善飼料の実証」では、米粉及び菓子屑等の地域資源を活用した低タンパク質アミノ酸バランス改善飼料を肥育豚に給与した場合の生産性と肉質への影響や窒素排せつ量の削減効果及び経営改善効果を検討し、有益な研究成果が得られたため、令和7年度からは現地実証試験を実施する。

令和6年度試験研究課題一覧

(肉用牛部・酪農飼料部)

部門	研究課題	細目課題・項目内容	研究年度	担当部
肉用牛	1 DNA解析技術による宮崎牛の価値プラスワン事業 (畜産振興費)	(1)評価指標構築事業 (2)評価水準検討事業	R 3～ R 7	肉用牛
	2 生産性向上を目指した繁殖牛・子牛の効率的飼養管理技術の検討 (畜産試験場費)	(1)発酵TMRを活用した子牛育成技術の検討 (2)未利用資源を含む発酵TMRを活用した繁殖牛飼養管理技術の検討 (3)ICT機器を用いた子牛発育推定システムの開発・検討	R 3～ R 6	〃
	3 競争力を強化した肥育牛生産体系の開発に関する研究 (畜産試験場費)	(1)早期出荷に適した肥育前期給与体系の検討 (2)放牧肥育技術および放牧生産牛肉の特性に関する検討	R 3～ R 6	〃
	4 「宮崎牛」のおいしさ高位平準化試験 (畜産試験場費・農業総務費)	(1)おいしさの高位平準化試験	R 4～ R 6	〃
	5 肉用牛における県独自のゲノミック評価技術の構築と育種改良への活用に関する研究 (畜産試験場費)	(1)フィールド情報の蓄積 (2)本県独自のゲノミック評価の検証 (3)新たなゲノミック評価項目の検討	R 5～ R 7	〃
	6 牛の消化管内発酵由来メタン削減資材に関する調査 (受託試験)	(1)脂肪酸カルシウム長期給与による肉用牛の飼養成績および消化管からのメタン発生量削減効果の調査	R 6	〃
酪農飼料	1 温暖化に対応した乳牛の飼養管理最適化試験 (畜産試験場費)	(1)気候変動に対応した安定した生乳生産技術の開発 (2)ICTを活用した高泌乳牛生産技術の開発	R 5～ R 7	酪農飼料
	2 搾乳ロボットを活用した乳用牛の暑熱ストレスと環境負荷低減技術の実証 (畜産試験場費)	(1)GHGと乳生産性との関連性の解明 (2)GHG低減技術の開発	R 6～ R 8	〃
	3 新たな高栄養飼料作物の生産技術の開発 (畜産試験場費)	(1)高栄養飼料作物の栽培技術の検討	R 6～ R 8	〃
	4 子実用トウモロコシの栽培・飼料調製技術の検討 (受託試験)	(1)子実用トウモロコシの栽培・飼料調製技術の検討	R 5～ R 6	〃
	5 飼料作物の優良品種選定試験 (畜産振興費)	(1)飼料作物奨励品種選定試験 ・トウモロコシ ・イタリアンライグラス	S 5 7～	〃
	6 粗飼料分析指導センターにおける飼料分析 (畜産振興費)	(1)近赤外分光分析計等による新たな試料分析技術の開発	S 6 0～	〃
	7 自給粗飼料生産の機械体系化確立試験 (畜産試験場費)	(1)効率的機械利用技術の検討 (2)場内向け自給飼料の質・量の確保	H 1 0～	〃

(家畜バイテク部)

部門	研究課題	細目課題・項目内容	研究年度	担当部
家 畜 バ イ テ ク	1 黒毛和種供胚牛の採胚成績向上 (畜産試験場費)	(1) 抗酸化物質の投与法の検討 (2) 抗酸化物質投与が採胚成績に及ぼす影響の調査	R 6 ~ R 8	家畜 バイテク
	2 受精卵移植における受胎率向上 試験 (畜産試験場費)	(1) 受卵牛選定のための簡易手法検討	R 5 ~ R 6	〃
	3 受精卵供給事業 (畜産振興費)	(1) 優良な雌牛からの受精卵の生産と 農家への供給	H 2 ~	〃
	4 効率的胚生産技術共同試験 (畜産振興費)	(1) OPU-IVPによる効率的胚生産方法の 検討	R 5 ~ R 7	〃
	5 食品廃棄物を用いた機能性成分高 含有飼料の実用化に向けた製造の 検討 (畜産試験場費)	(1) 焼酎粕の乳酸発酵試験 (2) 牛への給与試験	R 4 ~ R 6	〃
	6 黒毛和種における卵巢予備能と繁 殖性の関連性調査 (農業総務費)	(1) 育成牛及び経産牛の胞状卵胞数測 定 (2) 育成牛における分娩後の繁殖性調 査 (3) 経産牛における過去の繁殖成績の データ採取	R 4 ~ R 6	〃

(川南支場 養豚科・養鶏科・環境衛生科)

部門	研究課題	細目課題・項目内容	研究年度	担当科
養豚	1 省力的で生産性の高い養豚経営に向けた技術開発 (畜産試験場費)	(1) 効率的な養豚生産を目指した装置の開発 (2) 生産性向上を目指した飼育管理技術等の検討 (3) 持続可能な豚生産技術試験	R 6～ R 8	養豚
	2 食品廃棄物を用いた機能性焼酎粕の製造及び家畜への給与に関する研究 (畜産試験場費)	(1) 焼酎粕の機能成分が豚に及ぼす効果の検証	R 4～ R 6	〃
養鶏	1 みやざき地頭鶏種鶏群素ひな供給能力向上 (畜産試験場費)	(1) 地頭鶏(雄系原種鶏)の改良 (2) 九州ロード(雌系原種鶏)の改良 (2) 孵化技術の開発	R 6～ R 10	養鶏
	2 みやざき地頭鶏の新たな生産性向上対策試験 (畜産試験場費)	(1) 斉一性向上対策試験 (2) 「みやざき地頭鶏」の新たな肥育体系の開発	R 2～ R 6	〃
	3 みやざき地頭鶏総合支援事業 (畜産振興費)	(1) 素ひな安定供給対策	H 30～	〃
環境衛生	1 持続可能なスマート畜産環境対策技術の開発・実証 (畜産試験場費)	(1) 「スマート養豚排水処理システム」の実証 (2) 地域資源を活用したアミノ酸バランス改善飼料の実証	R 5～ R 7	環境衛生
	2 ロボットとAI/IoTを利用したスマート家畜ふん尿処理技術の開発 (受託試験)	(1) スマート排水処理技術の開発	R 4～ R 6	〃

IV 試験研究課題および成果の概要

1 肉用牛部

試験研究課題	予算区分	試験研究期間	試験研究者所属氏名	令和6年度試験研究成果の概要	発表誌及び年月日
1 DNA解析技術による宮崎牛の価値プラスワン事業	県単	R3～R7	肉用牛部 堀之内 正次郎 村岡 信太郎	ゲノミック評価の母集団の精度向上及び新たな評価対象形質になり得るデータ蓄積のため、現場後代検定調査牛については、種雄牛9頭の去勢牛107頭及び種雄牛9頭の雌牛53頭の計160頭のデータを収集及び蓄積した。	
2 生産性向上を目指した繁殖牛・子牛の効率的飼養管理技術の検討	県単	R3～R6	肉用牛部 堀之内 正次郎 月足 拓己	子牛用発酵TMR給与開始からの一日増体重は、試験区1.17kg/日、対照区0.94kg/日であり、試験区において高い傾向を示した。 繁殖牛へ発酵TMR(えのき菌床)を給与することで、飼料費削減が可能であり、血液性状も正常範囲内であった。 また、ICTの試験では、試作機(LiDAR搭載カメラ)による撮影および解析を行ったところ、実体重と推定体重で0.98の高い相関が得られた。	宮崎県畜産試験場研究報告第35号, 1-5, Dec. 2024
3 競争力を強化した肥育牛生産体系の開発に関する研究	県単	R3～R6	肉用牛部 木村 萌	早期出荷体系の検討では、供試牛8頭出荷し、枝肉重量は試験区平均が481kgであり、肥育期間中の日増体重は試験区が高い傾向を示した。 放牧試験では、R5年9月に出荷した供試牛の牛肉の成分分析をしたところ、機能性成分であるビタミンEを多く含むことが判明した。しかしながら、一般的な牛枝肉格付け取引では、安価での取引となった。	
4 「宮崎牛」のおいしさ高位標準化試験	県単	R4～R6	肉用牛部 村岡 信太郎	昨年度実施した官能評価試験のとりまとめを実施した結果、好ましさの評点において、「うま味」「香ばしい香り」「とろける」「甘み」「甘い風味」「あっさりしている」の項目でプラスに、「ゴム状」「しつこい」「脂がまとわりつく」「獣特有の香り」の項目でマイナスに優位に働くことがわかった。	
5 肉用牛における県独自のゲノミック評価技術の構築と育種改良への活用に関する研究	県単	R5～R7	肉用牛部 堀之内 正次郎 村岡 信太郎	枝肉共進会等の出品牛285頭のDNAサンプルと評価対象となる枝肉6形質や脂肪酸推定含有割合等のデータを収集するとともに、384頭のSNP型(1塩基多型)判定を行い、関連解析を実施中である。	
6 牛の消化管内発酵由来メタン削減資材に関する調査	受託	R6	肉用牛部 木村 萌	黒毛和種去勢肥育牛に22ヵ月齢から26ヵ月齢の期間において脂肪酸カルシウムを配合飼料の4%量給与した場合、高エネルギー飼料の多給により、乾物摂取量は減少し、メタン排出量は給与しない場合と同程度であった。	

2 酪農飼料部

試験研究課題	予算区分	試験研究期間	試験研究者所属氏名	令和6年度試験研究成果の概要	発表誌及び年月日
1 温暖化に対応した乳牛の飼養管理最適化試験	県単	R 5～R 7	酪農飼料部 森 弘 佐藤 涼花	国産のトウモロコシ乾燥子実と子実サイレージとを用いた発酵TMRの給与試験を行った。乾燥子実区及びサイレージ区のどちらも乳生産性や健康への影響は見られず、問題なく給与可能である。	宮崎県畜産試験場研究報告第35号, 6-9, Dec. 2024
2 搾乳ロボットを活用した乳用牛の暑熱ストレスと環境負荷低減技術の実証	県単	R 6～R 8	酪農飼料部 森 弘 佐藤 涼花	搾乳ロボットにて、メタン測定装置を用いた吸引式によるメタンガス及び二酸化炭素の測定を行った。スニフアー法によるメタンガス発生量の測定が可能であった。GHG低減が期待されるカシューナッツ殻液を含有した飼料の給与試験を行った。	
3 新たな高栄養飼料作物の生産技術の開発	県単	R 6～R 8	酪農飼料部 黒木 邦彦	高タンパク飼料として飼料用ダイズを候補とし、栽培体系の検討と品種比較を実施した。 現地試験では飼料用イネの再生草を利用した収穫技術の調査を実施し、2回刈りが実施可能であることが確認された。	
4 子実用トウモロコシの栽培・飼料調製技術の検討	受託	R 5～R 6	酪農飼料部 黒木 邦彦	子実用トウモロコシの保管方法としては、乾燥保存、サイレージ保存ともに保存性に問題はなかった。 また、給与する場合には、消化性を高めるために粉碎、圧パン処理を行うが、粉碎機の設定により粒子の大きさを調整することが可能であった	
5 飼料作物の優良品種選定試験	県単	S 5 7～	酪農飼料部 黒木 邦彦	2024年度の品種比較においては、気象条件が不安定であり、収量調査の結果が品種特性を反映していないと判断した。このことから当該年度のデータは参考値とし、2025年度も継続調査することとなった。このことから奨励品種に変更はなかった。	
6 粗飼料分析指導センターにおける飼料分析	県単	S 6 0～	酪農飼料部 黒木 邦彦	各地域農業改良普及センターから依頼のあった粗飼料の成分分析や評価を行い、その結果を各普及センターが畜産経営体に対して、給与設計等の指導に活用した。 県内8普及センター依頼分は358件で、昨年度と比べ、減少した。	
7 自給粗飼料生産の機械体系化確立試験	県単	H 1 0～	酪農飼料部 立山 松男	41.96haのほ場に作付けを行い、ヘイレージ140 t、トウモロコシサイレージ147 t、ソルガムサイレージ232 t、乾草122 tの合計641 tの自給粗飼料を確保した。	

3 家畜バイオテク部

試験研究課題	試験区分	試験研究期間	試験研究者所属氏名	令和6年度試験研究成果の概要	発表誌及び年月日
1 黒毛和種供胚牛の採胚成績向上	県単	R 6～R 8	家畜バイオテク部 松山 来春美	場内黒毛和種供胚牛2頭に抗酸化物質（レスベラトロール）を25g/日で5日間経口投与し、経時的に採血し、ヒトと同様の方法でレスベラトロール抱合体及び遊離体の合計を測定したが、牛の血中からは検出されなかった。	
2 受精卵移植における受胎率向上試験	県単	R 5～R 6	家畜バイオテク部 高城 葵	場内飼養牛（ホルスタイン種1頭、黒毛和種4頭）及び生産現場飼養牛（ホルスタイン種8頭）について、発情前日、発情日、受精卵移植日の血液性状、卵巣形態、子宮頸管粘液性状、VERの調査を実施した。供試牛13頭中2頭のみ受胎したが、受胎牛及び不受胎牛における共通した傾向は確認できず、各々の指標間に関連性も認められなかった。	
4 受精卵供給事業	県単	H 2～	家畜バイオテク部 高城 葵	体内胚生産および受精卵移植技術については民間に十分に普及したと判断したことから、令和5年度に場内での受精卵生産を終了、令和6年度は譲渡も終了した。	
5 効率的胚生産技術共同試験	県単	R 5～R 7	家畜バイオテク部 高城 葵	OPU-IVPの体外受精工程における媒精時間の短縮について検討した。媒精時間6時間の対照区と3時間に短縮した試験区において、胚盤胞発生率に有意差はなかった。	
6 食品廃棄物を用いた機能性成分高含有飼料の製造及び家畜への給与に関する研究	県単	R 4～R 6	家畜バイオテク部 松山 来春美	プロテアーゼの代替として麦麴を利用し調整した焼酎粕発酵飼料に5種の粗飼料を合わせTMRを調製したところ、プロテアーゼ添加区に比べTMR1tあたりのコストを19%削減でき、保存性・発酵品質が高く嗜好性も良好であった。また、黒毛和種繁殖雌牛6頭にオルニチンが1,000mg/kg含まれた焼酎粕発酵TMRを4kg/日で3週間給与したところ、GOTが有意に低下した。	
7 黒毛和種における卵巣予備能と繁殖性との関連性調査	県単	R 4～R 6	家畜バイオテク部 高城 葵	8組の母娘牛を調査し、母牛と娘牛間のAMH値には正の相関が、AFCには弱い負の相関が見られた。2～3産までの10頭を調査したところ、AFCと分娩間隔には弱い負の相関が見られた。	

4 養豚科

試験研究課題	試験区分	試験研究期間	試験研究者所属氏名	令和6年度試験研究成果の概要	発表誌および年月日
1 省力的で生産性の高い養豚経営に向けた技術開発	県単	R 6～R 8	川南支場 養豚科 志岐 侑祐 高橋 京史	<p>飲水時体温測定機器で豚の口腔温と飲水行動を測定し、発情との関係をロジスティック回帰分析で評価したところ、飲水行動は発情を検知する可能性が示唆された。</p> <p>L-アルギニン強化飼料を離乳子豚に給与した試験においては、発育への影響は認められなかった。また、血漿中PUNは、対照区と比較し、試験区が試験期間中高い値を示したことで、低体重の子豚にアルギニンを給与しても増体に影響を及ぼさないことが示唆された。</p> <p>乾燥キウイ実証給与については、肥育後期豚に対して乾燥キウイを給与させ、対照区と試験区の発育を2反復で調査したところ、どちらの試験においても発育への影響は認められなかった。また、肉質への影響については、脂肪融点が有意に上昇した。</p>	
2 食品廃棄物を用いた機能性焼酎粕の製造及び家畜への給与に関する研究	県単	R 4～R 6	川南支場 養豚科 志岐 侑祐 高橋 京史	<p>繁殖母豚に対して、オルニチン38mg/kg/日、GABA48mg/kg/日の量を市販飼料に添加して給与したところ、哺乳子豚の21日齢体重に区間差は認められず、機能性成分の相互的影響も認められなかった。</p>	

5 養鶏科

試験研究課題	試験区分	試験研究期間	試験研究者所属氏名	令和6年度試験研究成果の概要	発表誌および年月日
1 みやざき地頭鶏種鶏群素ひな供給能力向上	県単	R 6～R 10	川南支場 養鶏科 太田 錬 垣内 佳介	<p>地頭鶏については、令和6年1月発生群は、令和5年4月発生群と比較すると、「S60」「H15」「M28」それぞれ雌雄共に体重が増加した。一方で、産卵率は3系統共に低下した。新系統「R3」は、増体及び産卵率が「S60」に次ぐ成績であった。次年度は能力評価に加え、予備試験としてCMを作成する。</p> <p>九州ロードについては、熊本・大分との協定試験により種卵交換等を行いながら維持・改良を行った。令和6年度孵化の29世代は、50%産卵率到達日齢が2日早まり、卵重53g到達日齢は5日遅延した。</p> <p>発生するタイミングが種鶏群毎では同じであること、貯卵期間毎では異なることが分かった。</p>	宮崎県畜産試験場研究報告第35号, 59-63, Dec. 2024
2 みやざき地頭鶏の新たな生産	県単	R 2～R 6	川南支場 養鶏科 垣内 佳介 太田 錬	<p>トレハロースを飼料添加したところ、出荷体重において、雄では全ての試験区で、雌では一つを除いた試験区で対照区を上回る結果となった。</p> <p>4週齢時まで点灯プログラムに間欠点灯を加えたところ、通常の点灯プログラム区と比べ、発育が良好であった。</p>	

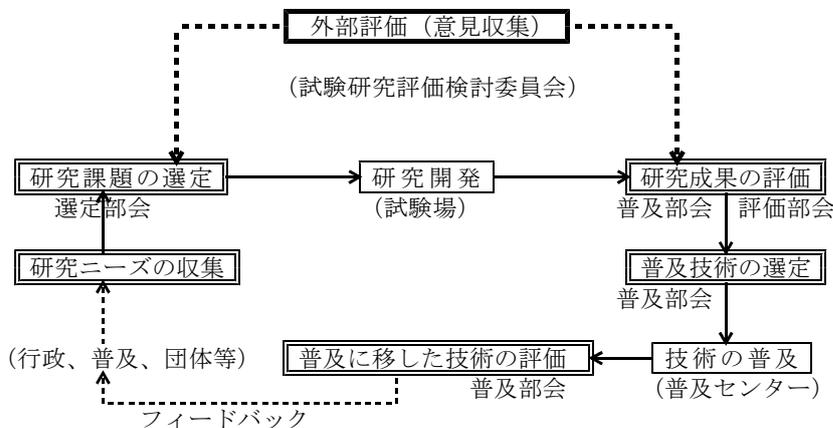
6 環境衛生科

試験研究課題	試験区分	試験研究期間	試験研究者所属氏名	令和6年度試験研究成果の概要	発表誌および年月日
1 持続可能なスマート畜産環境対策技術の開発実証	県単	R 5～R 7	川南支場 環境衛生科 三角 久志 甲斐 敬康	<p>本県産の米粉や菓子屑等の地域資源を活用した低タンパク質アミノ酸バランス改善飼料を設計・製造し、肥育豚に給与した場合の増体性・飼料効率・枝肉成績及び肉質への影響、糞中窒素排せつ量及び総窒素排せつ量の環境負荷軽減効果、さらには飼料費と枝肉販売額等の経営収支に及ぼす影響を市販配合飼料給与との比較により実証した。</p> <p>その結果、増体、飼料要求率、枝肉成績及び肉質に差がなく、窒素排せつ量が有意に低下することが明らかとなった。また、本県産の地域資源を活用することにより、1頭当たりの飼料費が2,429円安くなり、枝肉販売額から飼料費を引いた枝肉販売差額は、31,766円と高い収益であった。また、地域資源を試験区飼料に43.3%配合したことにより、飼料自給率が43.3%向上した。</p>	<p>宮崎県畜産試験場研究報告第35号, 64-77, Dec. 2024</p> <p>日本養豚学会学会誌第61巻第4号, 190, Dec. 2024</p>
2 ロボットとAI/IoTを利用したスマート家畜ふん尿処理技術の開発	受託	R 4～R 6	川南支場 環境衛生科 甲斐 敬康 三角 久志	<p>都城市内の養豚排水処理施設（実証施設）において、月2回の頻度で実証農場の原水、曝気槽水および処理水の水質分析を行うとともに、排水処理施設の保守管理に要している労働時間や省力化のためのIoT遠隔監視機能に関する要望（カメラの設置場所と必要台数、監視ポイント等）の再確認とその実施効果の調査を行った。また、「汚泥管理システム」を開発するための実地試験を行い、曝気槽における汚泥濃度の自動制御効果を明らかにした。</p>	

7 「普及技術等」として評価された成果

農政水産部技術調整会議普及技術決定部会において、農漁業者に普及すべき技術または普及・指導機関等での活用が見込まれる技術（以下「普及技術等」として決定（評価）されたもの。

（技術調整のしくみ）



※ で囲んだ枠内を技術調整会議で実施する。

(1) 令和6年度 研究成果一覧（普及技術決定部会 大家畜）

整理番号	普及部会	課題名	主査部	分類
1	大家畜	1 飼料作物栽培におけるロボットトラクターとの協調作業の検討	酪農飼料部	研究成果
2		2 ロボットトラクターを用いた協調作業による省力化効果の検証	酪農飼料部	研究成果
3		3 ツマジロクサヨトウの防除技術	酪農飼料部	研究成果
4		4 トウモロコシ子実とエノキダケ菌床を用いた発酵TMRの搾乳牛への給与技術	酪農飼料部	研究成果
5		5 子実用トウモロコシ栽培における雑草防除の効果	酪農飼料部	研究成果
6		6 泌乳中後期搾乳牛におけるトウモロコシ子実の給与効果	酪農飼料部	研究成果
7		7 牛舎冷却施設内での飼養が暑熱期の生産性低下に与える影響	家畜 バイテク部	研究成果
8		8 黒毛和種高齢牛への抗酸化物質投与が体内胚の採卵成績に及ぼす影響	家畜 バイテク部	研究成果
9		9 過剰排卵処理におけるFSH単回投与時のヒアルロン酸添加効果の検証	家畜 バイテク部	研究成果

(2) 令和6年度 研究成果一覧 (普及技術決定部会 中小家畜)

整理番号	普及部会	課 題 名	主査部	分類
10	中小家畜	1 スマート給水器を用いた推定体温と膣温の関係性	川南支場 養豚科	研究成果
11		2 中ヨークシャー交雑種のリジン要求量の推定及びリジン含量とロース肉中の脂肪交雑の関係	川南支場 養豚科	研究成果
12		3 中ヨークシャー種を連産させた繁殖成績への影響	川南支場 養豚科	研究成果
13		4 肥育豚への乾燥させたキウイ (乾燥キウイ) 添加の官能特性への影響	川南支場 養豚科	研究成果
14		5 豚へのオルニチン添加が発育に及ぼす影響	川南支場 養豚科	研究成果
15		6 地頭鶏 (雄系原種鶏) の体重及び産卵率向上、新系統の基礎群造成	川南支場 養鶏科	研究成果
16		7 九州ロード (雌系原種鶏) の増体および産卵率の向上	川南支場 養鶏科	研究成果
17		8 「スマート汚泥自動制御装置」の開発	川南支場 環境衛生科	普及技術
18		9 肥育豚における地域資源を活用した低タンパク質アミノ酸バランス改善飼料の給与効果	川南支場 環境衛生科	普及技術

普及技術 2
研究成果 16

8 特許等登録状況

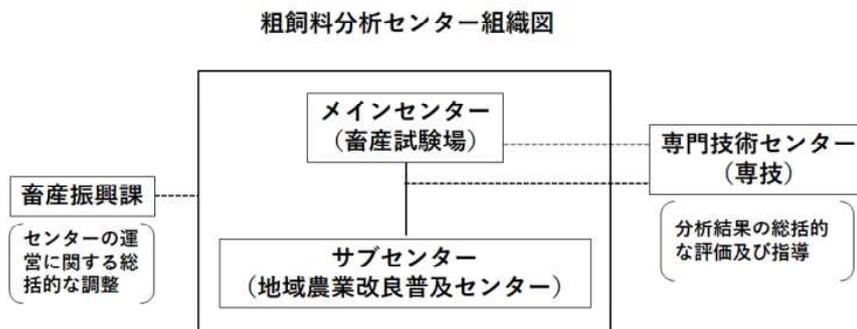
区 分	出願日	登録日	状 況	出 願 名	登録状況	部科名
特許権	2006/03/31	2009/08/28	権利放棄	培養容器及び培養装置 (特許第4362633号)	権利消滅日 2017/08/28	家畜 バイオテク部
特許権	2008/03/31	2011/03/11	権利放棄	ウシ個体における枝肉重量を評価する 遺伝子マーカー及びそれを用いた枝肉 重量評価方法 (特許第4696195号)	権利消滅日 2021/03/11	肉用牛部
特許権	2010/12/20	—	審査放置	牛の発情管理装置		家畜 バイオテク部
意匠権	2011/06/21	2012/03/23	権利継続	温湿度計 (暑熱ストレス指標計及びそれに係る ノウハウ) (意匠登録第1438892号)		家畜 バイオテク部
特許権	2012/07/02	—	審査放置	子牛用の不快環境指数計		家畜 バイオテク部
特許権	2012/07/02	2017/05/26	権利放棄	家畜体の環境緩和装置 (特許第6145754号)	権利消滅日 2020/05/26	家畜 バイオテク部
著作権	2012/12/10	2012/12/25	権利継続	牛の繁殖管理システム		家畜 バイオテク部
実用新案権	2014/03/27	2014/05/14	権利消滅	脂肪蓄積量測定器 (実用新案登録第3191101号)	権利消滅日 2024/03/27	家畜 バイオテク部
特許権	2020/02/06	2023/12/14	権利継続	G A B A及びオルニチンを高含有する 飼料の製造方法 (特許第7403096号)		家畜 バイオテク部
特許権	2021/03/02	2024/10/25	権利継続	動物用検温装置およびこれを用いた体 調管理システム (特許第7577261号)		養豚科

V その他の事業

1 粗飼料分析指導事業（県単，S 60～，酪農飼料部）

当事業は、畜産試験場及び支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）で構成する宮崎県粗飼料分析指導センターにより実施し、本県の畜産農家における粗飼料の効率的な利用技術の普及を行うため、その成分含量を的確に分析し、畜産農家に対して、適切な指導を実施する中心的な機関として設置されている。

（1）粗飼料分析指導の流れ



（2）令和6年度実績

栄養成分分析の内訳は、一般依頼が47点（前年度対比112%）、普及センターが普及指導の一環として行うプロジェクト分析が311点（同69%）であった。昨年同様、一般分析よりプロジェクト分析件数が多い結果となった（表1）。

地域別では、栄養成分の分析依頼点数は、児湯地域が106点（前年度対比88%）と最も多く、次いで西諸県地域が83点（同81%）であった。以下、南那珂地域が55点（同93%）、中部地域が39点（同95%）、北諸県地域が28点（同41%）、東臼杵南部地域が24点（同52%）、西臼杵地域が20点（同40%）、東臼杵北部地域3点（同38%）の順であった。

草種別では、前年度同様イタリアンライグラスが139点（前年度対比50%）と最も多く、次いで飼料用イネ70点（同75%）、ソルガム23点（同105%）、飼料用トウモロコシ20点（同24%）の順となった（表2）。

表1 分析項目別点数

(単位：件)

普及センター	一般分析(注1)	プロジェクト分析(注2)	合計
中部	0	39	39
南那珂	1	54	55
北諸県	0	28	28
西諸県	44	39	83
児湯	0	106	106
東臼杵北部	0	3	3
東臼杵南部	2	22	24
西臼杵	0	20	20
普及セ計	47	311	358
普及セ計(前年)	42	453	495
(前年対比%)	(112)	(69)	(72)
畜試(注3)		63	63
合計	47	374	421
合計(前年)	42	597	639
(前年対比%)	(112)	(63)	(66)

注1. 一般依頼は農業者や農業団体からの依頼

注2. プロジェクトは普及センターが普及指導の一環として行う分析

注3. 畜産試験場が試験研究で行った分析

表2 草種別分析点数

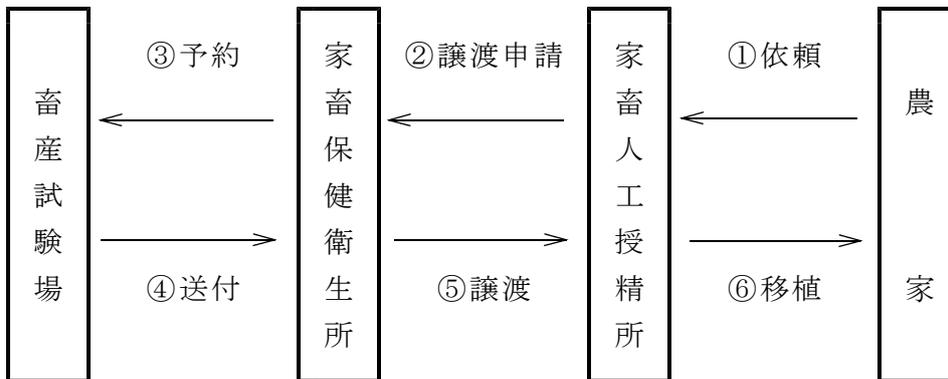
普及センター	イタリアンライグラス				トウモロコシ			ソルガム				飼料用イネ			
	生草	サイレージ	乾草	合計	生草	サイレージ	合計	生草	サイレージ	乾草	合計	生草	サイレージ	乾草	合計
中部	10	4	-	14	-	-	0	6	-	1	7	2	8	-	10
南那珂	9	1	-	10	-	-	0	4	1	-	5	8	14	1	23
北諸県	6	6	-	12	4	3	7	-	1	-	1	-	2	1	3
西諸県	11	10	14	35	8	3	11	6	1	-	7	4	4	-	8
児湯	-	29	13	42	-	2	2	-	3	-	3	-	17	3	20
東臼杵北部	3	-	-	3	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	0
東臼杵南部	5	4	-	9	-	-	0	-	-	-	0	2	2	1	5
西臼杵	8	3	3	14	-	-	0	-	-	-	0	-	1	-	1
小計	52	57	30	139	12	8	20	16	6	1	23	16	48	6	70
畜試	28	1	1	30	11	1	12	5	-	-	5	-	-	-	-
合計	80	58	31	169	23	9	32	21	6	1	28	16	48	6	70

普及センター	稲ワラ				麦類				暖地型牧草				その他				
	生草	サイレージ	乾草	合計	生草	サイレージ	乾草	合計	生草	サイレージ	乾草	合計	生草	サイレージ	乾草	その他	合計
中部	-	-	-	0	-	1	-	1	-	2	-	2	-	5	-	-	5
南那珂	-	-	1	1	7	-	-	7	1	-	-	1	7	-	1	-	8
北諸県	-	1	1	2	-	1	-	1	-	-	-	0	1	1	-	-	2
西諸県	-	-	1	1	3	3	1	7	-	-	-	0	5	8	1	-	14
児湯	-	-	-	0	-	5	3	8	-	3	-	3	7	12	9	-	28
東臼杵北部	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	-	0
東臼杵南部	-	-	2	2	-	-	-	0	-	1	-	1	4	2	1	-	7
西臼杵	-	-	1	1	-	-	-	0	-	-	-	0	4	-	-	-	4
小計	0	1	6	7	10	10	4	24	1	6	0	7	28	28	12	0	68
畜試	-	-	-	-	1	-	-	1	1	-	2	3	2	1	1	8	12
合計	0	1	6	7	11	10	4	25	2	6	2	10	30	29	13	8	80

2 受精卵供給事業

優良な受精卵を農家に安定的に供給し、受精卵移植技術の向上と普及定着を促進することにより、肉用牛生産の安定的発展を図る。

(1) 受精卵の供給体制



(2) 令和6年度実績

ア 供卵牛の頭数

黒毛和種	ホルスタイン種
23頭 (含育成牛)	0頭

イ 採卵及び受精卵の供給状況

区分	採卵頭数	生産個数	移植師への譲渡個数
黒毛和種	0頭	0個	0個
ホルスタイン種	0頭	0個	0個

ウ 移植状況 (低ランク胚含む)

令和7年3月31日現在

宮崎家畜保健衛生所管内				延岡家畜保健衛生所管内			
移植頭数	受胎頭数	不明頭数	受胎率	移植頭数	受胎頭数	不明頭数	受胎率
0頭	0頭	0頭	-	0頭	0頭	0頭	-
都城家畜保健衛生所管内				合計			
移植頭数	受胎頭数	不明頭数	受胎率	移植頭数	受胎頭数	不明頭数	受胎率
0頭	0頭	0頭	-	0頭	0頭	0頭	-

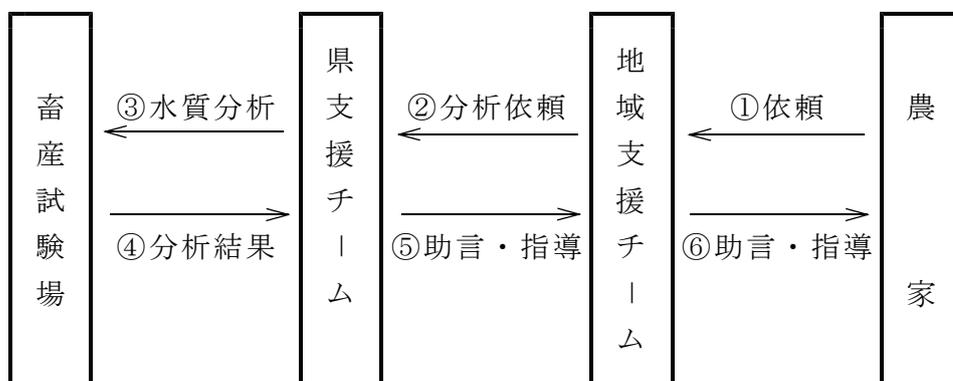
3 家畜排せつ物の適正管理と利用のための現地指導

(県単, H21～, 環境衛生科)

家畜排せつ物適正管理と利用を推進するため、(公社)宮崎県畜産協会、西臼杵を除く各地域の農林振興局(農業改良普及センター)、畜産試験場、畜産振興課で構成されている「宮崎県畜産経営環境保全技術支援チーム」により、畜産環境対策の現地指導を行った。

また、地域における畜産臭気低減対策の一助とするため、臭気測定装置(商品名:畜環式ニオイセンサ)を貸し出し、臭気対策に必要な助言等を行うとともに、都城市内の養豚農場において、農場の「臭気マップ」作成を支援し、農場臭気の見える化を行い、効果的な臭気対策の実施につなげた。

(1) 家畜排せつ物の適正管理と利用促進のための現地指導等の流れ



(2) 令和6年度実績

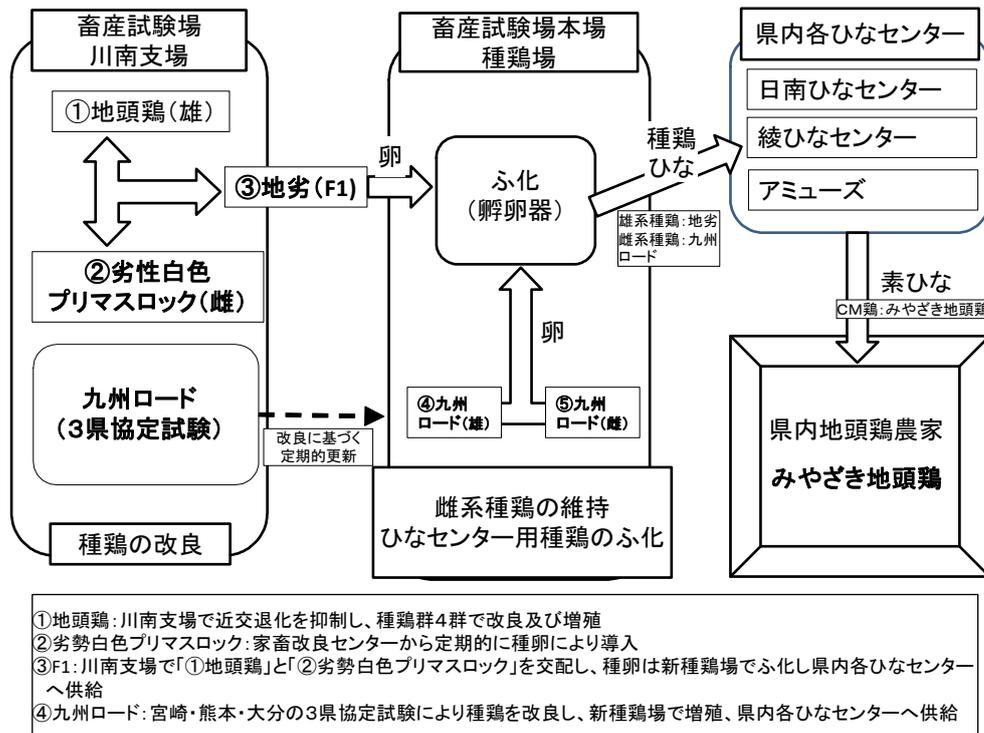
ア 臭気測定件数(臭気測定装置貸し出し件数)

区分	中部	南那珂	北諸県	西諸県	児湯	東臼杵	計
臭気測定	1	0	0	0	2	0	3

4 みやざき地頭鶏の素ひな供給事業（県単，：R1～，養鶏科）

県内3ヶ所にあるみやざき地頭鶏のひなセンターに畜産試験場から種鶏ひなを供給することにより、各ひなセンターからみやざき地頭鶏生産農家への安定的な素ひな（CM鶏）の供給を図る。

（1）素ひなの供給体制



（2）令和6年度種鶏素ひな供給羽数（羽）

ひなセンター名	九州ロード（雌）	地劣（雄）
アミューズ	4,200	487
地頭鶏ランド日南	1,800	145
地頭鶏ランド日南綾農場	1,100	120
合計	7,100	752

VI 試験研究の発表及び広報・研修活動等

1 試験研究の発表

発表会等	発表課題	発表年月	発表誌(機関)	発表者
第121回 日本養豚学会	体温計測用給水器を用いた発情前後における豚の口腔温と飲水行動の変化	R6. 10	日本養豚学会誌 第61巻 第4号	川南支場 養豚科 技師 高橋 京史
	地域資源を活用したアミノ酸バランス改善飼料の給与が肥育豚生産に及ぼす影響			川南支場 環境衛生科 科長 三角 久志
第17回 日本暖地畜産学会	肥育後期豚への乾燥キウイ給与が発育および肉質に及ぼす影響	R6. 10	日本暖地畜産学会 要旨	川南支場養豚科 主任技師 壺岐 侑祐
	搾乳ロボット給与体系におけるトウモロコシ子実サイレージとエノキダケ菌床を用いた発酵TMRの乳牛への影響			酪農飼料部 専門技師 森 弘
令和6年度 畜産技術研究発表会	黒毛和種子牛へのTMR給与が発育等に及ぼす影響	R6. 11	畜産技術研究発表会 講演要旨集	肉用牛部 技師 月足 拓己
	宮崎県肥育牛の脂肪酸分析値の現状			肉用牛部 主任研究員 村岡 信太郎
	搾乳牛の国産子実用トウモロコシ給与の検証			酪農飼料部 技師 佐藤 涼花
	養豚におけるスマート技術			川南支場養豚科 主任技師 壺岐 侑祐
	幼雛期の点灯方法の違いによる比較試験			川南支場養鶏科 技師 垣内 佳介
	地域資源を活用したアミノ酸バランス改善飼料の給与が肥育豚生産に及ぼす影響			川南支場 環境衛生科 科長 三角 久志
英語による農工大学院 生研究発表会2024	Effects of dietary lysine levels on growth performance and meat quality of Middle White crossbred	R6. 11	—	川南支場養豚科 主任技師 壺岐 侑祐

2 広報活動

発表誌等	発表課題	発表年月	発表者
開拓情報 797号	ウインドレス分娩豚舎の暑熱対策	R6. 9	川南支場養豚科 老岐 佑祐
酪農宮崎 2月号 No. 639号	畜産試験場におけるドローン作付けの取り組み	R7. 2	酪農飼料部 黒木 邦彦

3 講演・講義

講演・研修会等名	演題	主催	日程	講師名
県立高鍋農業高校 堆肥生産実習	えのき廃菌床を用いた戻し堆肥生産	県立高鍋農業高校 畜産科肉用牛班	R6. 6. 20	川南支場 環境衛生科 三角 久志
県立農業大学校 畜産学科講義	家畜排せつ物の適正処理と利用	県立農業大学校 畜産学科	R6. 6. 24 R6. 7. 8	川南支場 環境衛生科 三角 久志
県立農業大学校 畜産学科講義	酪農の最新の試験研究と成果	県立農業大学校 畜産学科	R6. 7. 16	酪農飼料部 森 弘
県立農業大学校 畜産学科講義	肉用牛の最新の試験研究と成果	県立農業大学校 畜産学科	R6. 7. 29	肉用牛部 木村 萌
家畜受精卵移植講習会	家畜体内受精卵移植	家畜防疫対策課	R6. 8. 1～9. 4	家畜 ^ハ 行 ^ク 部 重永 あゆみ 高城 葵 松山 来春美
さのっ講話	みやざきの畜産	狭野小学校	R6. 9. 4	研究企画 廣津 美和
きりしまアグリ未来塾	国産飼料の活用	宮崎銀行小林支店	R6. 9. 25	酪農飼料部 黒木 邦彦
県立農業大学校 畜産学科講義	畜産の新技术	県立農業大学校 畜産学科	R6. 10. 21	研究企画 廣津 美和
家畜人工授精講習会	家畜の育種	家畜防疫対策課	R6. 10. 30	肉用牛部 村岡信太郎
県立農業大学校 畜産学科講義	畜産の新技术	県立農業大学校 畜産学科	R6. 11. 11	家畜 ^ハ 行 ^ク 部 重永 あゆみ
県立農業大学校 畜産学科実習	畜産の新技术 (家畜体内受精卵採卵)	県立農業大学校 畜産学科	R6. 11. 18	家畜 ^ハ 行 ^ク 部 重永 あゆみ 高城 葵
県立農業大学校 畜産学科 現地研修・講義	スマート農業活用	県立農業大学校 畜産学科	R6. 11. 19	肉用牛部 堀之内正次郎 酪農飼料部 黒木 邦彦
県立農業大学校 畜産学科実習	畜産の新技术 (家畜体内受精卵移植)	県立農業大学校 畜産学科	R6. 11. 25	家畜 ^ハ 行 ^ク 部 重永 あゆみ

3 講演・講義

講演・研修会等名	演題	主催	日程	講師名
野尻中学校最新農業講習会	スマート農業について	小林市青年部野尻支部	R6.11.26	酪農飼料部 黒木 邦彦
県立農業大学校畜産学科講義	家畜の栄養と飼料	県立農業大学校畜産学科	R7.2.7	酪農飼料部 黒木 邦彦
日本草地学会宮崎大会国際シンポジウム	畜産試験場酪農飼料部の取組	日本草地学会	R7.3.18	酪農飼料部 黒木 邦彦
日本草地学会若手の会春合宿2025	畜産試験場酪農飼料部の取組	日本草地学会若手の会	R7.3.19	酪農飼料部 黒木 邦彦

4 研修活動

研修名	研修内容	研修者	期間	人数
普及指導員ベースアップ研修	繁殖母牛	普及指導員、専技	R6. 5. 17	5名
普及指導員ベースアップ研修	牛の見方研修	普及指導員、専技	R6. 6. 17	7名
農業大学校インターンシップ	飼養管理全般	農業大学校2年生	R7. 7. 22～25	4名
インターンシップ (獣医職、畜産職)	飼養管理全般	学生	R6. 8. 8(2名) R6. 8. 21(3名) R6. 8. 29(2名)	7名
家保職員試験場研修 (川南支場養鶏科)	養鶏全般	家保職員	R6. 9. 9～13(1名) R7. 3. 6～14(1名)	2名
試験場研修	各部での研修	普及指導員 (井上、高見)	R6. 10. 7～10. 11 R6. 8. 7～9. 26	2名
畜産試験場視察研修	試験研究全般	県内高校の農業技術を担 当する教員	R6. 10. 15	11名
NOSAI研修	受精卵移植技術OPU研修	NOSAI獣医師	R7. 2. 18 R7. 2. 26	7名
合 計				45名

5 職員・研究支援員研修

研修名	研修内容	研修先	研修期間	受講者
新規採用職員研修	前期研修	自治学院	R6. 4. 22～4. 26	酪農飼料部 佐藤 涼花
特定化学物質及び四アル キル鉛作業主任者技能講 習	-	宮崎市	R6. 5. 16～17	家畜バイテク部 松山 来春美
普及員ベースアップ研修	繁殖母牛について	畜産試験場内	R6. 5. 17	肉用牛部 月足 拓己 木村 萌 酪農飼料部 佐藤 涼花 家畜バイテク部 高城 葵
農業用機械免許資格取得 促進研修	大型特殊免許取得研修（農 耕用）	農業大学校	R5. 5. 20～6. 14	川南支場養豚科 高橋 京史 川南支場養鶏科 太田 錬
専門指導力向上研修	主食用水稻、WCS用稲、 飼料用米等	総合農業試験場	R6. 6. 7	肉用牛部 月足 拓己 酪農飼料部 佐藤 涼花 家畜バイテク部 松山 来春美

5 職員・研究支援員研修

研修名	研修内容	研修先	研修期間	受講者
普及員ベースアップ研修	牛の見方	畜産試験場内	R6. 6. 17	肉用牛部 月足 拓己 酪農飼料部 佐藤 涼花 家畜バイテク部 高城 葵 松山 来春美
養豚実践研修	—	宮崎経済連 御池繁殖農場 大久保第一肥育農場	R6. 6. 24～6. 28 R6. 7. 1～7. 5	川南支場養豚科 高橋 京史
財務会計基礎・実務研修	財務会計について	防災庁舎	R6. 6. 24	酪農飼料部 佐藤 涼花
専門指導力向上研修	大家畜・中小家畜	総合農業試験場	R6. 7. 5	酪農飼料部 佐藤 涼花
自治学院研修	主任主事・主任技師職員研修	自治学院	R6. 7. 19	家畜バイテク部 高城 葵
宮崎大学主催研修	ウシの腹部および生殖器における超音波検査の基礎	宮崎大学住吉フィールド	R6. 7. 22	家畜バイテク部 重永 あゆみ
自治学院研修	行政と争訟セミナー	自治学院	R6. 7. 24	家畜バイテク部 高城 葵
宮崎大学主催研修	子牛の下痢症制御を目的とした糞便移植研究の最前線	オンライン	R6. 7. 29	家畜バイテク部 重永 あゆみ 高城 葵
新人3年目研修	総務事務センター研修	自治学院	R6. 8. 20	肉用牛部 木村 萌
農政水産部新規採用職員研修	宮崎県の農政水産業について	防災庁舎	R6. 8. 22	酪農飼料部 佐藤 涼花
自治学院選択研修	統計分析手法を活かした課題解決法	自治学院	R6. 8. 30	肉用牛部 木村 萌
家畜DNA解析技術者研修	牛のSNP情報解析に関する研修	(独)家畜改良センター	R6. 9. 2～6 R7. 2. 17～21	肉用牛部 村岡 信太郎 堀之内正次郎
自治学院選択研修	仕事の質とスピードを高める「4つの力」工場	自治学院	R6. 9. 6	肉用牛部 月足 拓己
自治学院研修	プレゼン話し方研修	防災庁舎	R6. 9. 11	酪農飼料部 佐藤 涼花
第一種圧力容器作業主任者研修	—	鹿児島市	R6. 9. 14～15	家畜バイテク部 高城 葵
労働衛生教育研修	—	オンライン	R6. 9. 26	酪農飼料部 佐藤 涼花
NOSAIコラボ研修	暑熱、ETについて	西諸県普及センター	R6. 10. 2	酪農飼料部 佐藤 涼花
普及員ベースアップ研修	繁殖性について	総合農業試験場	R6. 10. 7	酪農飼料部 佐藤 涼花
肉用牛繁殖生産性向上セミナー	今だからこそムダを省く対策	総合農業試験場	R6. 10. 7	家畜バイテク部 高城 葵 松山 来春美
令和6年度西諸県地域家畜防疫研修	防護服着脱訓練、動力噴霧器実演等	小林総合庁舎	R6. 10. 9	家畜バイテク部 松山 来春美
令和6年度基礎研修	2年目研修	自治学院	R5. 10. 23	川南支場養鶏科 太田 錬
家畜人工授精講習会	—	農業大学校	R6. 10. 23～11. 26	家畜バイテク部 松山 来春美
自治学院選択研修	人を育てるコミュニケーション	自治学院	R6. 10. 25	肉用牛部 大山 真二
中央畜産技術研修会	養鶏	(独)家畜改良センター	R6. 10. 29～11. 1	川南支場養鶏科 太田 錬
令和6年度県立試験研究機関長協議会合同研修	—	総合農業試験場	R6. 10. 31	家畜バイテク部 松山 来春美
自主企画研修	肉用牛先進地視察研修	栃木県	R6. 11. 5～7	肉用牛部 村岡 信太郎 木村 萌
中央畜産技術研修会	畜産統計処理(基礎)	(独)家畜改良センター	R6. 11. 11～15	肉用牛部 村岡 信太郎

5 職員・研究支援員研修

研修名	研修内容	研修先	研修期間	受講者
令和6年度畜産技術研修会	-	総合農業試験場	R6. 11. 15	家畜バイオテク部 松山 来春美
普通救命講習	AEDの使用をはじめとする 応急手当の知識と技術習得	小林総合庁舎	R6. 11. 19	家畜バイオテク部 重永 あゆみ
メンタルヘルス研修	セルフケア	宮崎県庁	R6. 11. 22	家畜バイオテク部 重永 あゆみ
中央畜産技術研修会	畜産新技術（総合）	(独)家畜改良センター	R6. 11. 26～29	肉用牛部 月足 拓己
肉牛農場管理認定獣医師 高度・実践的研修会	-	鹿児島県曾於市	R6. 11. 26～28	家畜バイオテク部 重永 あゆみ
ウシ体外受精技術研修	OPU-IVP実務研修	家畜改良センター宮崎牧場	R6. 12. 2～12	家畜バイオテク部 高城 葵
堆肥アドバイザー研修	堆肥について	県庁	R6. 12. 10～12. 13	酪農飼料部 佐藤 涼花
自治学院選択研修	ひと目で分かる・伝わる図 解ポイント	自治学院	R6. 12. 10	家畜バイオテク部 松山 来春美
産業動物現場技術講習会	牛のハンドリング	宮崎大学住吉フィールド	R6. 12. 23	家畜バイオテク部 高城 葵
中央畜産技術研修会	統計遺伝育種学（専門）	(独)家畜改良センター	R7. 1. 20～24	肉用牛部 堀之内正次郎
畜産研修会	牛管理の無理と無駄を省く	J A小林地区本部	R7. 1. 21	家畜バイオテク部 松山 来春美
畜産研修会	繁殖管理、自給飼料生産に ついて	都城家畜市場	R7. 1. 28	酪農飼料部 佐藤 涼花
フォークリフト運転技 能講習	フォークリフト免許の取 得	西都自動車学校	R7. 1. 30～2. 2	川南支場養鶏科 太田 錬
畜産研修会	家畜疾病対策および飼料作 物の土作り	J Aみやざきえびの市本 部	R7. 2. 4	肉用牛部 月足 拓己
病理分科会	ヨーネ病の概要と病変形成 機序	宮崎大学	R7. 2. 10	家畜バイオテク部 重永 あゆみ
SAPセミナー	SAP会員向け技術研鑽 (病害虫・果樹・畜産)	総合農業試験場	R7. 2. 14	酪農飼料部 佐藤 涼花 家畜バイオテク部 松山 来春美
令和6年度肉用牛の飼養 管理に関するオンライン 全国研修会	-	オンライン	R7. 2. 21	家畜バイオテク部 重永 あゆみ 高城 葵
令和6年度肉用牛ゲノ ミック評価研修会	宮崎県における肉用牛ゲノ ミック評価の活用	対面・オンライン	R7. 2. 25	研究員14名
ホルスタイン毛刈り講習	-	えびの市	R7. 2. 27	酪農飼料部 佐藤 涼花 家畜バイオテク部 松山 来春美
令和6年度繁殖技術共同 試験に係る最終検討会	OPUグループ グループ	家畜改良センター	R7. 3. 3～4	家畜バイオテク部 高城 葵
酪農・暑熱対策セミナー	異常な暑さが通常になる時 に備えて	東京都	R7. 3. 4	家畜バイオテク部 松山 来春美
宮崎大学主催研修	ウシ体外受精胚生産技術を 学ぶ	オンライン	R7. 3. 5	家畜バイオテク部 高城 葵 松山 来春美
第14回SKLVセミナー	暑熱対策	鹿児島県曾於市	R7. 3. 10	酪農飼料部 佐藤 涼花 家畜バイオテク部 松山 来春美
肉牛農場管理認定獣医師 高度・実践的研修会	-	鹿児島県曾於市	R7. 3. 11～13	家畜バイオテク部 重永 あゆみ
産業動物分野における学 び直し研修	データを活用した乳用牛の 繁殖管理について	宮崎大学	R7. 3. 14	酪農飼料部 佐藤 涼花
地域指導人材育成研修	素牛レベルに応じた飼養管 理と瑕疵対策	児湯農業改良普及セン ター	R7. 3. 27	肉用牛部 大山 真二 村岡 信太郎 月足 拓己

6 主要刊行物

刊行物名	発行年月	発刊部数	備考
業務年報 (令和5年度版)	R6.7	250部	畜試HP公開
県畜産試験場研究報告 第35号	R6.12	163部	畜試HP公開

Ⅶ 総務

1 令和6年度予算

(1) 畜産試験場費

(単位：千円)

区分	決算額	備考
管理費	261,638	本課執行及び他試験場分任分 1,609千円含む。
試験費	103,818	本課執行及び他試験場分任分 3,140千円含む。
合計	365,456	

(2) 本庁令達予算

(単位：千円)

区分	決算額	備考
一般管理費	5,944	
人事管理費	31	
農業総務費	3,476	
畜産総務費	1,480	
畜産振興費	18,187	
家畜保健衛生費	50	
県有災害復旧費	0	
合計	29,168	

2 令和6年度主要施設整備

施設名(所属)	概要	金額	備考
川南支場(養豚科)	種豚舎・育成豚舎・家畜衛生試験舎カーテン修繕	5,368	
本場(酪農飼料部)	酪農成牛舎インバーターファン取付修繕	3,300	
本場(管理課)	試験場正門大型門扉取替え設置	2,013	
川南支場(養豚科)	養豚科焼却炉特AK50型煙突修繕	1,734	
本場(酪農飼料部)	酪農成牛舎バーンクリーナーチェーン修繕	1,320	
合計		13,735	

3 令和6年度主要備品整備

事業名・用途等	品名(規格)	金額	備考
公用車更新	トラック2トン	4,467	支場分 令和5年度繰越
防疫用消毒散布、場内環境整備	乗用運搬車	979	支場分
環境美化	乗用草刈機	844	支場分
豚妊娠鑑定	超音波診断装置	594	支場分
合計		6,884	

4 県有財産・土地調べ

区分	令和6年3月31日現在高	令和7年3月31日現在高	増減の理由
本場	1,292,230.56 m ²	1,292,230.56 m ²	
内、普通財産	0.00 m ²	0.00 m ²	
川南支場	231,609.48 m ²	231,609.48 m ²	
内、普通財産	28,310.00 m ²	28,310.00 m ²	
計	1,523,840.04 m ²	1,523,840.04 m ²	
	28,310.00 m ²	28,310.00 m ²	

5 県有財産・建物調べ

区分	令和6年3月31日現在高	令和7年3月31日現在高	増減の理由
本場	16,985.80 m ²	16,985.80 m ²	
内、普通財産	799.09 m ²	799.09 m ²	
川南支場	15,131.02 m ²	15,131.02 m ²	
内、普通財産	0.00 m ²	0.00 m ²	
計	32,116.82 m ²	32,116.82 m ²	
	799.09 m ²	799.09 m ²	

6 令和6年度職員の配置

(令和6年4月1日現在)

職名	氏名	事務 技術 獣医 の別	職名	氏名	事務 技術 獣医 の別
場長	水野 和幸	技術	川南支場長	垂水 啓二郎	技術
副場長(総括)	永山 博久	事務	専任主幹	高浦 秀樹	事務
副場長(技術)	原 好宏	技術	主事	高田 楓菜	事務
研究企画主幹	廣津 美和	技術	養豚科		
管理課長	永山 博久 (兼)	事務	専任主幹	小坂 昭三	技術
主任	黒木 まゆみ	事務	主任技師	老岐 侑祐	技術
専任主査	南 良一	事務	技師	高橋 京史	技術
主査	山口 隆義	事務	養鶏科長	弓削 耕一郎	獣医
主任主事	隈田原 久弥	事務	技師	垣内 佳介	技術
肉用牛部長	大山 真二	技術	技師	太田 錬	技術
主任研究員	堀之内 正次郎	技術	特別研究員兼環境衛生科長	三角 久志	技術
主任研究員	村岡 信太郎	技術	専門技師(再)	甲斐 敬康	技術
技師	月足 拓己	技術	技術 22名 獣医 2名 事務 7名 本場 20名 支場 11名 計 31名		
技師	木村 萌	技術			
酪農飼料部副部長	立山 松男	技術			
主任研究員	黒木 邦彦	技術			
専門技師(再)	森 弘	技術			
技師	佐藤 涼花	技術			
家畜バイオテック部副部長	重永 あゆみ	獣医			
主任技師	高城 葵	技術			
技師	松山 来春美	技術			

(再) : 再任用、(兼) : 兼務

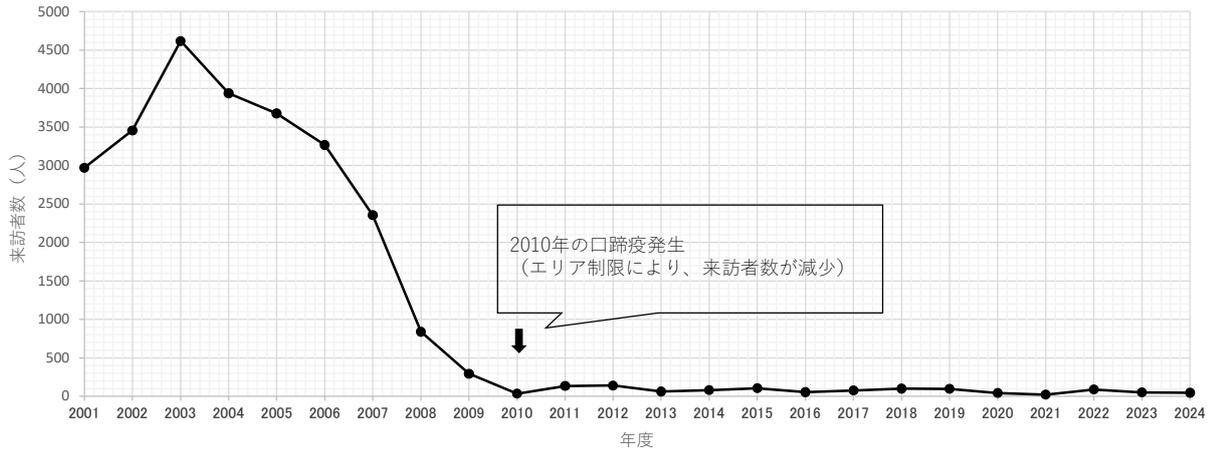
VIII 資料

1 試験研究課題・成果数の推移

		H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	
要望課題総数(次年度分)		4	10	7	4	5	16	15	18	
当該年度実施課題数		30	29	30	30	27	22	21	24	
構 想 重 点 目 標 別 内 訳	①スマート時代の農畜産業を支える技術開発	5	2	2	2	9	12	7	10	
	②地域農畜産業の魅力を活かし、新たな価値を共創する技術開発	4	5	4	4	11	3	8	8	
	③持続的で安全・安心な農畜産業を実現する技術開発	0	4	3	3	7	7	6	6	
		21	18	21	21	/	/	/	/	
当該年度終了課題数		4	9	8	8	9	6	8	10	
次年度開始新規課題数		1	5	5	5	2	4	5	7	
次年度課題増減数		▲ 3	▲ 4	▲ 3	▲ 3	▲ 7	▲ 2	▲ 3	▲ 3	
当該年度研究成果カード数		19	7	21	24	20	12	17	18	
	(旧要領)									
	(新要領)									
内 訳	技術・普及	普及技術	5	3	9	11	3	1	4	2
	技術・参考	研究成果	14	4	12	13	17	11	13	16
	科学・普及		0	0	0	0	/	/	/	/
	科学・参考		0	0	0	0	/	/	/	/
	行政・普及		0	0	0	0	/	/	/	/
	行政・参考		0	0	0	0	/	/	/	/

注) 令和3年度に要領改正

2 来訪者数の実績



3 研修会等実施状況

年度	広報活動(回)	講演・講義(回)	研修活動(名)
2011	13	9	11
2012	11	33	22
2013	8	14	18
2014	9	26	16
2015	6	10	24
2016	5	20	12
2017	10	33	18
2018	19	28	14
2019	7	19	14
2020	9	16	10
2021	6	23	22
2022	9	17	89
2023	7	16	51
2024	2	13	45

4 受精卵供給の状況

年度	譲渡個数(個)
2008	1,014
2009	393
2010	209
2011	193
2012	287
2013	291
2014	292
2015	364
2016	650
2017	519
2018	256
2019	259
2020	219
2021	66
2022	24
2023	5
2024	0

5 粗飼料分析の状況

年度	分析数(件)
2008	1,086
2009	1,251
2010	595
2011	1,063
2012	843
2013	961
2014	942
2015	1,089
2016	1,406
2017	1,500
2018	1,360
2019	690
2020	818
2021	733
2022	713
2023	639
2024	421

6 臭気測定の様況

年度	測定件数(件)
2023	4
2024	3

7 みやざき地頭鶏素ひな供給の様況

年度	供給羽数(羽)
2017	10,260
2018	7,070
2019	9,240
2020	2,490
2021	5,060
2022	8,715
2023	9,845
2024	7,852

令和6年度 業務年報

編集・発行

宮崎県畜産試験場

〒889-4411

宮崎県西諸県郡高原町大字広原 5066

TEL 0984-42-1122

FAX 0984-42-1707
